



わが家のアイドル

二丁目にお住まいの
内田 圭太郎さん・文子さんの

長女 **稟 圭** ちゃん(1歳)

稟=さずかる、圭=たま。子宝を授かった
幸せな気持ちを込めて名付けました。
10月で1歳。名前を呼ぶたび、抱っこするたび、
寝顔を見るたび、その幸せを実感しています。



下田市はあいさつ運動実践中

あいさつは人と人とを 結ぶ架け橋



下田市内の指定文化財

その40

下田市指定史跡

遠国島遺跡

所在地 田牛釜の平

指定日 昭和49年3月20日

下田市の南西部、南伊豆町との境にはタライ岬という美しい岬があります。その近くにある遠国島は、奈良時代の祭祀遺跡として、下田市の史跡に指定されています。



遠国島遺跡 遠景

遠国島

南北約110メートル、頂上の標高はおよそ34メートルの小島です。かつて岬の一部であったものが、風浪や潮流により長い年月をかけて陸地と切り離され、島になったと考えられています。島の周囲

は荒い岩肌が露出し、中腹から頂上にかけては、ウバメガシや松などの樹木が急な崖面に自生しています。



遠国島遺跡 出土遺物

遠国島遺跡

江戸時代中期に編纂された地誌『豆州志稿』に土器が出土したと記されており、古くから島に遺跡があることが知られていました。

大正6年、当時の豆陽中学校長であり、熱意ある郷土史研究者であった足立鉄太郎は、この遺跡の調査を行いました。3月11日、地元の登自小学校渡辺校長らとともに、小舟で島に渡った一行は、手探りで急な崖面を這い登り、木立に囲まれ、昼でも薄暗い頂上に到着しました。そして遠国明

神の祠跡を発見し、周辺を発掘したところ、奈良時代の土器が多数出土しました。

祭祀遺跡

調査をした足立鉄太郎は、その報告文の中で、小島の狭い頂上から土器が出土することから、遺跡は古墳や住居跡では無いと考え、土器は古代人が島の神々を祀った儀式に使ったものと推測しました。

その後、考古学研究が進展し、島や岬の先端にいくつもの祭祀遺跡が見つかりました。そして現在では、海神や島神を祀った遺跡が、南伊豆の古代文化の一つの特徴に数えられています。

歌人でもあった足立鉄太郎は、報告文の末尾に次の歌を添えています。

そのむかし

誰いはいへを

ほりすえて

かゝる小島に

神祭りけむ

*「いはいへ」祝部土器

アクセス

伊豆急下田駅より田牛方面バス田牛バス停下車徒歩20分

問合せ先

教育委員会生涯学習課

☎ 5055

